

エゴマ栽培適性試験（5年目）

1. 目的

帯広市地域における「エゴマ富山早生種」の栽培適性を検証する。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品種 : 「富山早生種」、対照として「北海道産種」

(2) 面積および区制 : 100 m² (1区 50 m² × 2品種)

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日
沖積土	壤土	マスタード	80cm×30cm	露地直播・べた掛け	5/21

※1株6粒播き1本立

土改資材 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)						病害虫 防除
	施肥時期	肥料名	窒素	燐酸	加里	苦土	
炭カル 60kg	基肥 5/21 追肥 8/4	豆用 2号 80kg 硫安 15kg	3.6 3.0	16.8	8.0	3.6	無

4. 試験結果

(1) 生育経過（季節及び作業内容）

		富山早生種	北海道産種
播種	月日	5/21	5/21
播種粒数	粒	6	6
べた掛け被覆	月日	5/21~6/15	5/21~6/15
出芽期	月日	6/7	6/7
補植（2回）	月日	6/18、6/23	6/18、6/23
間引き（2回）	月日	7/15、7/27	7/15、7/27
かん水（4回）	月日	6/3、6/9、7/29、8/14	6/3、6/9、7/29、8/14
開花始め	月日	8/19	8/28
成熟期（莢黄変 70%）	月日	10/2	10/12
収穫	月日	10/7	10/14
脱穀・調整	月日	10/29	10/29

※かん水：出芽前1回、出芽後3回

播種前・播種後の降雨量が少なかったため出芽前に1回かん水したが、出芽まで2週間以上かかり、しかも欠株や不揃いが多く出芽は不良であった。特に、前作マスタードの倒伏跡地部分（試験面積の約半分程度）ではマスタードの野良生えが繁茂し、その影響を受けてエゴマの出芽が極めて悪かった。べた掛けを早めに除去し、6月18日と23日に補植を行い、面積を設置当初の半分に集約した。

6月中旬からの日照不足や低温、乾燥が続き生育が緩慢であったため3回かん水を行った。間引きを7月15日と27日に行い1株1本立てとし、また8月4日に生育不良部分に追肥（硫安 15kg/10a 程度）を行った。

8月の高温により徐々に生育の回復がみられ、8月19日に富山早生種の開花始、8月28日に北海道産種の開花始がそれぞれ確認された。成熟期は富山早生種が10月2日、北海道産種が10月12日で富山早生種が10日早かった。

8月14日の生育調査では北海道産種が富山早生種より草丈、葉数ともに少し上回っていた。倒伏の発生は両品種とも少発生程度とみられるが、北海道産種がやや多かった。

表 生育調査結果

調査日	項目	富山早生種	北海道産種
8/14	草丈(cm)	76.2	79.2
	葉数(枚)	19.8	22.8

(2) 収量調査

収穫は富山早生種を10月7日に、北海道産種を10月14日に手刈りをし、ガラス室で2～3週間乾燥させた後、10月29日に脱穀・唐箕掛けを行った。その後洗浄4回と病害粒や屑粒、ゴミ等選別作業などの調整を行った。

10a当たり製品収量は富山早生種が80.9kg、北海道産種が146.8kgで、北海道産種の単収は過去最高であった。

表 収量調査結果

項目	富山早生種	北海道産種
製品収量(kg/10a)	80.9	146.8

5. 考察

本年は播種時、播種後の圃場水分が著しく少なく、出芽が非常に不良で、その後の補植やかん水、部分追肥などの肥培管理に苦労が多かった。中盤までの生育は出芽不良や長期にわたる日照不足等の影響により生育不良状態が続いて低収が懸念されたが、8月の高温により生育回復の兆しがみられ、開花期や成熟期及び収穫期は過去2年間とほぼ同じ時期に迎えることが出来た。

収量は生育中盤での予想より多かったが、8月の高温により生育が回復したこと、開花時期が高温であったこと、草丈が伸びすぎず倒伏が少なかったこと及び刈り取り時に地面にブルーシートを引いて脱粒を出来るだけ少なくする対策を施したことなどが要因と考えられる。

今後、安定した出芽確保のため、播種時の土壌水分の確保と土壌水分に応じた播種深度の検討が必要と思われる。

令和2年エゴマ栽培の経過



播種時土壌の乾燥状態（甚乾燥）



5.21 播種



6.9 ベタ掛けの上からかん水



7.29 7月末時点の生育
左：富山早生種 右：北海道産種
富山早生種がやや小さい



8.19 開花始め頃の生育
左：富山早生種 右：北海道産種



8.19 富山早生種開花始め



8.28 北海道産種の開花始め



8.28 開花（着莢）状況の違い
左：富山早生種 右：北海道産種
北海道産種の着莢は見えない



9.30 成熟期頃の生育
左：富山早生種 右：北海道産種
富山早生種は茎葉・莢の黄変や落葉が進んでいるが、北海道産種の茎葉黄変は遅れている。



10.7 富山早生種収穫日の生育
左：富山早生種 右：北海道産種



10.14 北海道産種の刈り取り
脱粒防止のブルーシートを敷く



10.29 脱穀・唐箕がけ